

第1章 姫路市の概況

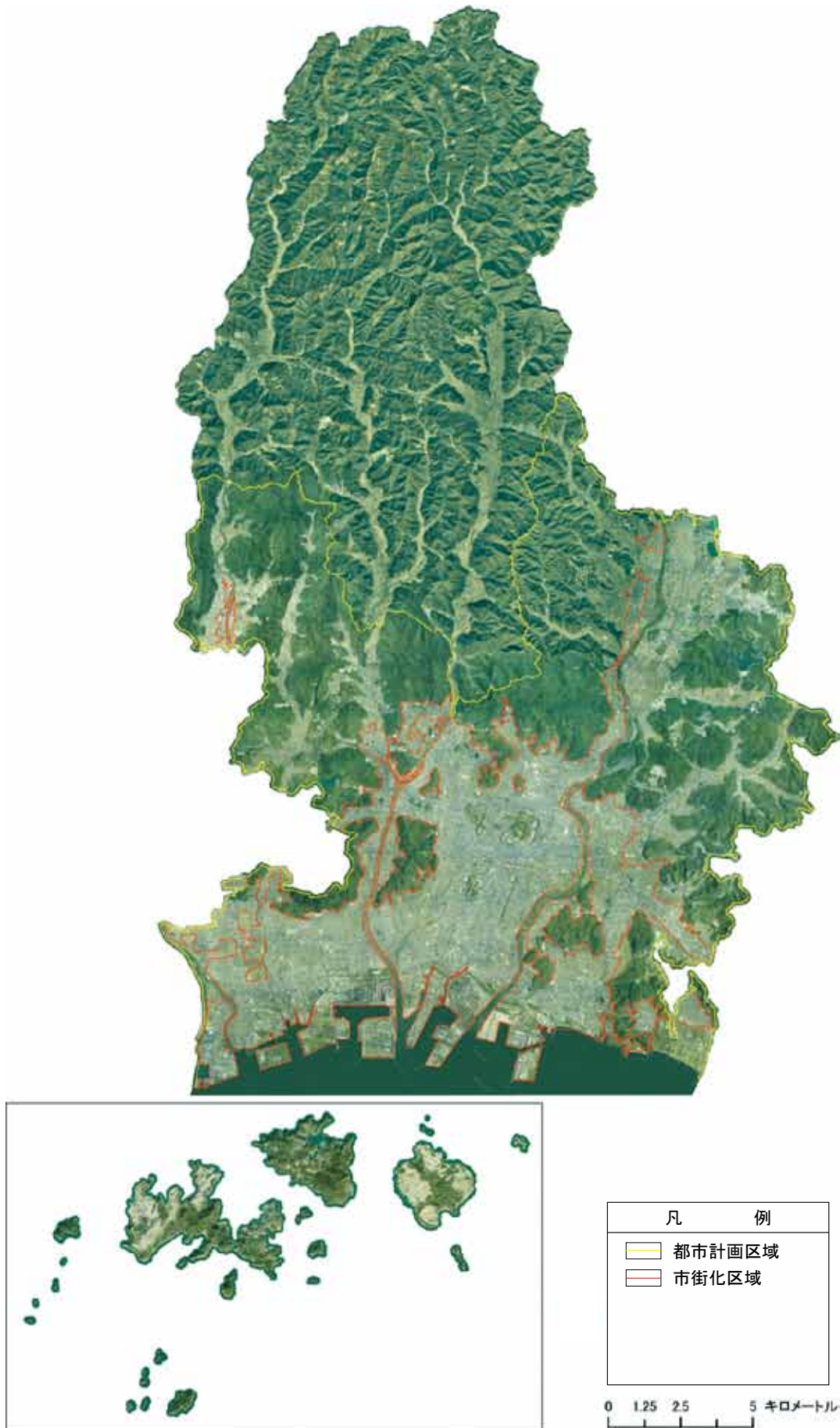
1 姫路市の特性

(1) 地理的・自然的特性

本市は、兵庫県の南西部、瀬戸内海に面した播磨平野の中央に位置し、市域は東西約36km、南北約56kmで、総面積が約534km²の播磨の中核都市です。神戸市まで約50km、岡山市までは約70km、大阪市や鳥取市までは80～90kmの直線距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっています。

市域北部は、豊かな森林や田園が広がるとともに、標高700～900m級の山並みが連なっています。市域の中南部は、世界文化遺産姫路城や姫路駅を中心に市街地が広がっており、山並みから切り離された丘陵が市街地内に点在しています。また、市川、夢前川、揖保川等の河川が南北に流れ、瀬戸内海には大小40余りの島が点在し、群島を形成しています。

気候は、瀬戸内型気候に属し、四季を通じて温暖な日が多く、自然災害等の比較的小さい地域となっています。



■ 市域の航空写真

(2) 都市形成の沿革

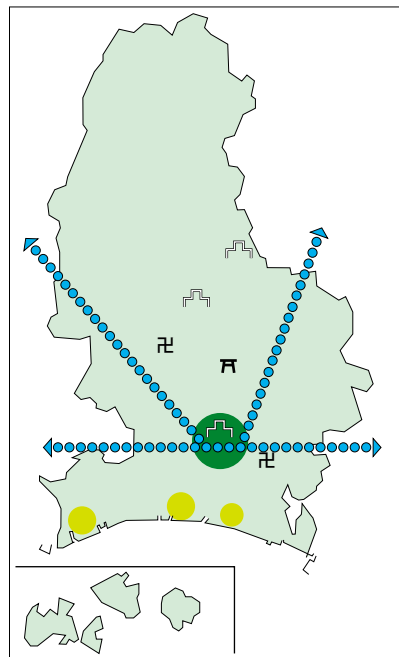
(第1段階：城下町としての発展)

姫路の地は、古くから西国街道と但馬、因幡、出雲の街道が結節する交通の要衝として栄えてきました。奈良時代に国府や国分寺が置かれて以来、播磨の中心として発達してきました。

自動車時代を迎えた今日でも、現在の国道線（国道2号）は西国街道を踏襲しています。

中世には、中国経営の拠点として、豊臣秀吉が姫山に三層の天守閣を持つ城郭を築き、17世紀初頭には、池田輝政が現在の5層の天守閣を持つ城郭を築城し、城下町の繁栄に努めました。

その後、徳川の親藩、譜代大名が城下を治め、新田開発や塩田開発、鉄鍛冶、木綿、皮革等の殖産が振興され、姫路藩として江戸時代を通して播磨の政治と経済の中心であり続けました。



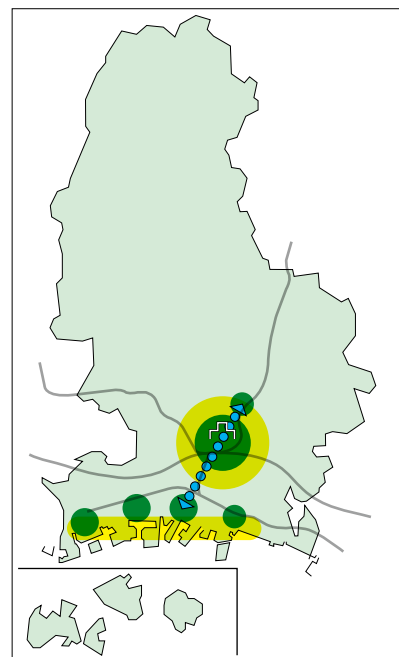
(第2段階：軍都及び工業都市)

現在の姫路市は、明治22年（1889年）に、江戸時代の城下町とその外縁部を市域とする人口約25,000人の都市として、全国30市とともに我が国初の市制を施行したところからはじまります。また、陸軍師団のうち第10師団が設置されてからは、長く軍都としての側面を持つことになります。

近代的な都市づくりの第一歩として、生野から飾磨港間の馬車道、飾磨港の整備が行われるとともに山陽鉄道や播但鉄道が開通しました。また、明治36年（1903年）には、姫路駅から小溝小路、軍用地を経て野里を結ぶ南北幹線道路の整備を行いました。これらの要因によって市街地の中心は西国街道筋から御幸通り筋に移りました。

大正時代には、姫路駅周辺は一大ターミナルとして商業・業務施設が集積するとともに、旧制姫路高校が大正13年（1924年）に開校し、文教府としての側面も持つようになります。

本市の工業化は、明治後期から昭和にかけ繊維関係の工場が次々に建設され、また大正から昭和にかけて臨海部に製鉄所等の重工業が進出し、人口の集積とともに市街地が拡大しました。大正末期から始まった土地区画整理事業は、上記の工場進出とあいまって、市街地拡大の大きな推進力となりました。



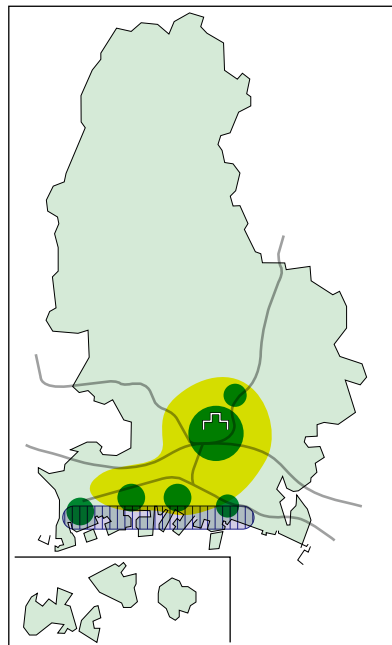
（第3段階：戦後の復興と市街地の拡大）

太平洋戦争では、2回の空襲により市街地は壊滅的な打撃を受けましたが、戦後復興を早期に果たすべく市街地の改造に取り組み、姫路駅周辺の復興が図られました。この計画の柱は、曲折が多くて狭い旧城下町時代の道路網を近代的な広い道路網に改修することであり、戦災復興土地地区画整理事業の実施により、国道線（国道2号）や大手前通りなど今日に至る市街地の骨格が形成されました。

戦災住宅対策は、都心部の旧軍用地の住宅建設に始まり、昭和21年（1946年）頃から公営住宅の建設が相次ぎました。昭和25年（1950年）頃からは、民間の住宅建設が盛んになり、八丈岩山一帯まで宅地化が進みました。

高度経済成長期には、播磨臨海工業地帯の中心としての役割を担い、商工業都市として今日の姿へと発展を遂げてきました。昭和45年（1970年）頃には姫路駅と臨海部の市街地がほぼ連たんするようになってきました。この市街地の拡大は、おおむね土地地区画整理事業と連動しています。

また、郊外部での住宅団地の開発が進むと同時に、無秩序な市街地の拡大に伴う都市環境の悪化等の問題が生じてきました。



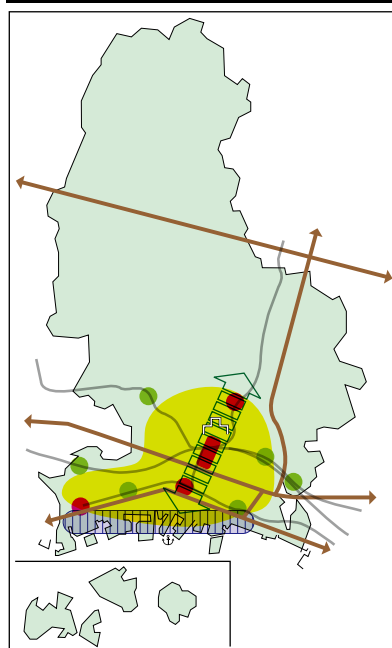
（第4段階：高度成長期から安定成長期へ）

昭和44年（1969年）に新都市計画法、都市再開発法が施行、昭和45年（1970年）3月に姫路市基本構想が策定され、本市の都市づくりの基本方向が定められました。

工業や産業の成長に伴い、国民の生活も大きく変化しましたが、一方で公害問題が全国で顕在化しました。これに対し、市街地の環境を保全するため、工業地域と一般市街地の間に緩衝地帯として、グリーンベルト（緩衝緑地）が整備されました。

また、昭和46年（1971年）には、無秩序な市街地拡大の抑制と計画的な市街化を図るため、市街化区域と市街化調整区域の区域区分が決定され、優先的に市街化を図る地域と市街化を抑制する地域が区分されることになりました。

計画的・効率的な都市施設の整備も行われ、鉄道網ではJR山陽新幹線新大阪～岡山間が開通し、道路網では国道2号姫路バイパス、播但連絡道路が開通するなど、国民経済の発展に必要な都市施設が完成していきました。市街地においては、土地の合理的かつ健全な利用に向け、北部副都心の整備や市街地開発事業が進められました。



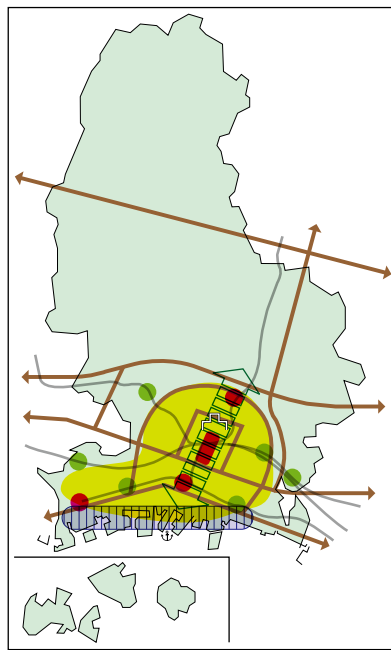
（第5段階：人口減少社会の到来と少子高齢化の進展）

平成に入り、バブル崩壊を経て、これまでの高度成長の時代は終わりを迎えました。また、少子高齢化が急速に進行しており、人口減少社会の到来を見据えた都市づくりが求められるようになりました。都市計画制度も用途地域の細分化（1992 年）、区域区分制度の選択制（2000 年）、大規模集客施設の立地規制の強化（2006 年）といった改正が行われ、これまでの都市の拡大成長を前提とした都市づくりから、都市機能を集約した都市づくりへの転換が行われています。

このような中、平成 5 年（1993 年）には姫路城が法隆寺とともに日本で初めて世界文化遺産に登録され、平成 8 年（1996 年）には、全国 11 市とともに最初の中核市へ移行しました。

また、平成 18 年（2006 年）に周辺 4 町と合併し、新しい姫路市となり、地方分権時代にふさわしい確かな一歩を踏み出したところです。

都心部では、J R 姫路駅周辺地区での鉄道高架化が平成 20 年（2008 年）に完成し、土地区画整理事業、関連道路事業等により、都市機能の集積と南北市街地の一体化が進んでいます。また、J R 姫路駅高架下への大型商業施設の出店や新駅ビルの建設など、中心市街地も賑わいを見せています。



(3) 社会的特性

(多様な歴史文化)

兵庫県下には 11 件の国宝の建造物があります。これは奈良県、京都府、滋賀県に次いで全国 4 番目の件数であり、このうちの 10 件が集中するのが播磨地域です。国宝建造物に代表される歴史と文化の宝庫といえる播磨地域において、特筆すべきものが世界文化遺産姫路城です。

世界文化遺産姫路城に加えて、本市には円教寺、広峯神社、弥勒寺、古井家住宅、随願寺の重要文化財があります。また、播磨国分寺跡、瓢塚古墳、赤松氏城跡、置塩城跡といった史跡等があるほか、西国街道など旧街道等の古道沿いには旧城下町、旧宿場町等の面影が残っています。このような多様な歴史と文化は現在、町並みや景観形成等にも生かされ、市域又は広域における観光資源としての役割も果たしています。

また、祭り屋台に象徴される歴史と文化は、コミュニティの活力となって蓄積されています。約 800 の自治会、約 300 の婦人会、約 550 の子供会、約 570 の老人クラブが祭りをはじめ、運動会や清掃活動など地縁的な活動を展開しています。

■ 兵庫県下の国宝建造物

	名称	種別	指定年月日	所在地
1	姫路城 大天守	近世以前／城郭	昭和 26. 06. 09	姫路市
2	姫路城 西小天守	近世以前／城郭	昭和 26. 06. 09	姫路市
3	姫路城 乾小天守	近世以前／城郭	昭和 26. 06. 09	姫路市
4	姫路城 東小天守	近世以前／城郭	昭和 26. 06. 09	姫路市
5	姫路城 イ、ロ、ハ、ニの渡櫓	近世以前／城郭	昭和 26. 06. 09	姫路市
6	一乗寺 三重塔	近世以前／寺院	昭和 27. 03. 29	加西市
7	浄土寺 浄土堂(阿弥陀堂)	近世以前／寺院	昭和 27. 03. 29	小野市
8	鶴林寺 本堂	近世以前／寺院	昭和 27. 11. 22	加古川市
9	鶴林寺 太子堂	近世以前／寺院	昭和 27. 11. 22	加古川市
10	朝光寺 本堂	近世以前／寺院	昭和 29. 03. 20	加東市
11	太山寺 本堂	近世以前／寺院	昭和 30. 06. 22	神戸市西区

（多彩な企業が立地するものづくり拠点）

本市を含む播磨臨海地域の製造品出荷額等は5兆円（平成22年）に達し、東京23区や大阪市など、どの政令指定都市をも上回るものづくりの拠点を形成しています。

播磨臨海地域の中心となる本市では、新日鐵住金(株)広畑製鐵所、山陽特殊製鋼(株)、(株)ダイセル化学工業姫路製造所、(株)日本触媒姫路製造所など鉄鋼、化学等の素材型産業に加えて、平成22年7月にはパナソニック(株)が液晶パネル工場を稼働させるなど、デジタル家電分野の最新鋭の工場が稼働しています。

内陸部では、中国縦貫自動車道や播但連絡道路沿いの工業団地を中心に、電気・一般機械等の多彩な企業が立地しています。

また、皮革、鎖など特色ある地場産業や姫路仏壇、明珍火箸等の城下町の伝統を受け継ぐものづくり産業が営まれています。

■ 播磨臨海地域の製造品出荷額等の比較(平成22年)

単位：千人、億円、万円/人

市町村名	人口	製造品出荷額等	1人当たり出荷額等
播磨臨海地域	1,252	50,077	400
札幌市	1,914	4,696	25
仙台市	1,046	9,632	92
さいたま市	1,222	7,768	64
千葉市	962	10,632	111
東京特別区	8,946	35,227	39
横浜市	3,689	43,363	118
川崎市	1,426	40,793	286
相模原市	718	11,610	162
新潟市	812	10,191	126
静岡市	716	16,972	237
浜松市	801	20,146	252
名古屋市	2,264	33,059	146
京都市	1,474	21,926	149
大阪市	2,665	35,669	134
堺市	842	32,256	383
神戸市	1,544	29,834	193
岡山市	710	9,061	128
広島市	1,174	21,923	187
北九州市	977	21,289	218
福岡市	1,464	5,660	39

（播磨臨海地域の内訳）

単位：千人、億円、%

市町村名	人口	製造品出荷額等	構成比
姫路市	536	19,036	38.0
明石市	291	10,049	20.1
加古川市	267	8,825	17.6
高砂市	94	9,215	18.4
稲美町	31	1,149	2.3
播磨町	33	1,804	3.6
播磨臨海地域	1,252	50,077	100.0

資料：国勢調査、工業統計調査

注：従業者3人以下の事業所を除く

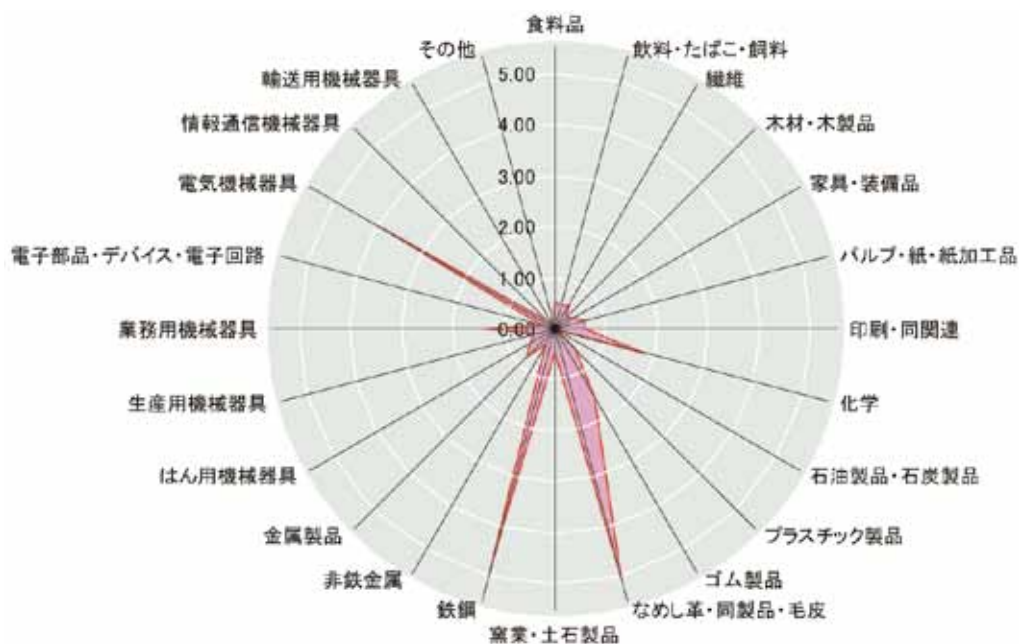
産業中分類別事業所数、従業者数、製造品出荷額等(姫路市、平成22年)

単位：事業所、人、億円、%

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
		構成比		構成比		構成比
総 数	1,144	100.0	44,670	100.0	19,036	100.0
食料品製造業	180	15.7	5,144	11.5	821	4.3
飲料・たばこ・飼料製造業	18	1.6	558	1.2	314	1.6
繊維工業	39	3.4	1,011	2.3	133	0.7
木材・木製品製造業（家具を除く）	19	1.7	249	0.6	42	0.2
家具・装備品製造業	17	1.5	228	0.5	46	0.2
パルプ・紙・紙加工品製造業	38	3.3	921	2.1	294	1.5
印刷・同関連業	67	5.9	1,099	2.5	234	1.2
化学工業	31	2.7	3,220	7.2	3,197	16.8
石油製品・石炭製品製造業	8	0.7	305	0.7	69	0.4
プラスチック製品製造業（別掲を除く）	37	3.2	1,029	2.3	389	2.0
ゴム製品製造業	9	0.8	649	1.5	305	1.6
なめし革・同製品・毛皮製造業	65	5.7	626	1.4	120	0.6
窯業・土石製品製造業	29	2.5	863	1.9	216	1.1
鉄鋼業	57	5.0	5,619	12.6	5,789	30.4
非鉄金属製造業	12	1.0	783	1.8	222	1.2
金属製品製造業	176	15.4	3,225	7.2	659	3.5
はん用機械器具製造業	65	5.7	2,098	4.7	393	2.1
生産用機械器具製造業	84	7.3	1,663	3.7	356	1.9
業務用機械器具製造業	12	1.0	1,960	4.4	632	3.3
電子部品・デバイス・電子回路製造業	16	1.4	1,103	2.5	272	1.4
電気機械器具製造業	71	6.2	9,655	21.6	4,016	21.1
情報通信機械器具製造業	13	1.1	539	1.2	177	0.9
輸送用機械器具製造業	49	4.3	1,640	3.7	299	1.6
その他の製造業	32	2.8	483	1.1	39	0.2

資料：工業統計調査

製造品出荷額等の特化係数(姫路市、平成22年)



資料：工業統計調査

注：特化係数とは、全国の産業別構成比に対する姫路市の産業別構成比の割合で、1に近いほど全国の水準に近く、1を超えると全国水準より比重が高い産業となる。

2 姫路市の現況

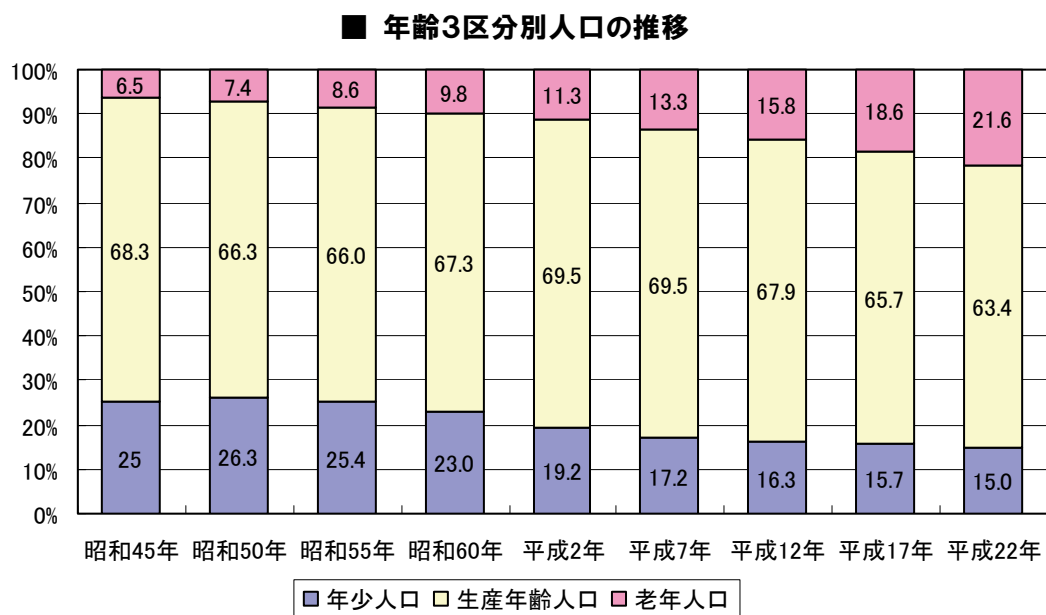
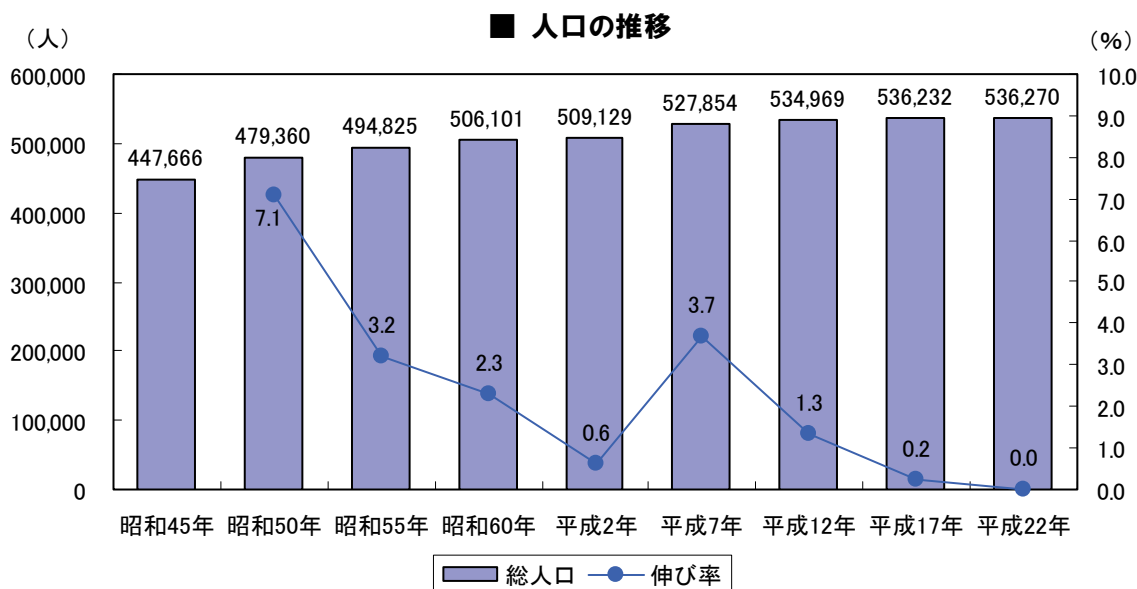
(1) 人口

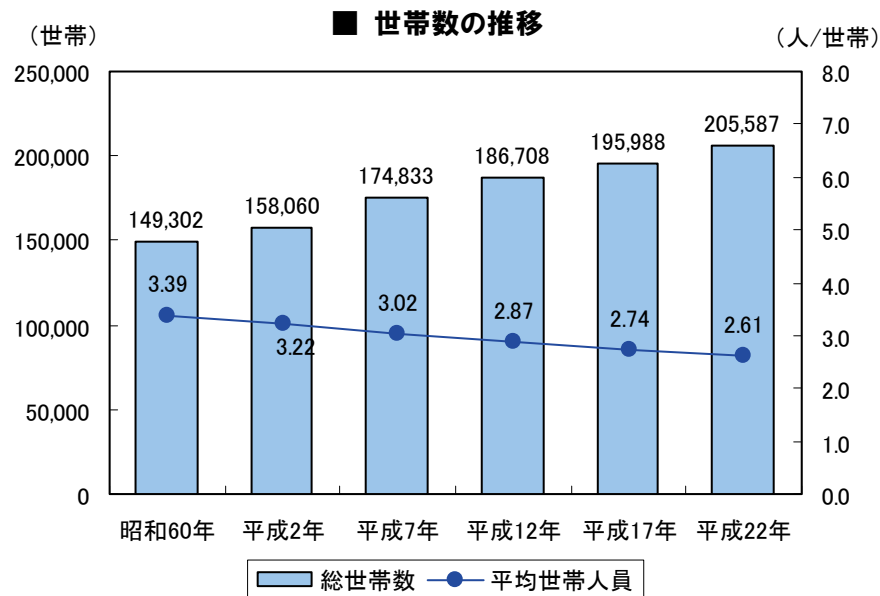
① 人口・世帯数の推移

本市の人口は 536,270 人（平成 22 年）であり、県内第 2 位、中核市の中では船橋市、鹿児島市に次ぐ人口規模を有しています。また、合計特殊出生率は全国平均を上回る 1.4 台であり、50 万人以上の市では高い水準にあります。

しかし、近年では人口の増加傾向が鈍化するとともに少子高齢化が年々進行し、生産年齢（15～64 歳）人口は、平成 7 年をピークに減少しています。また、平成 17 年以降、老年（65 歳以上）人口が年少（15 歳未満）人口を上回っています。

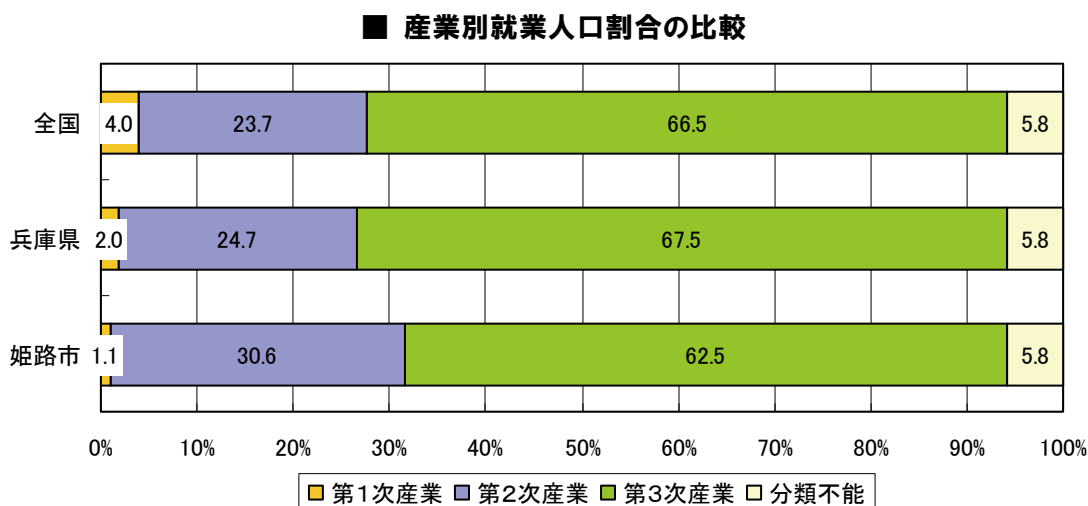
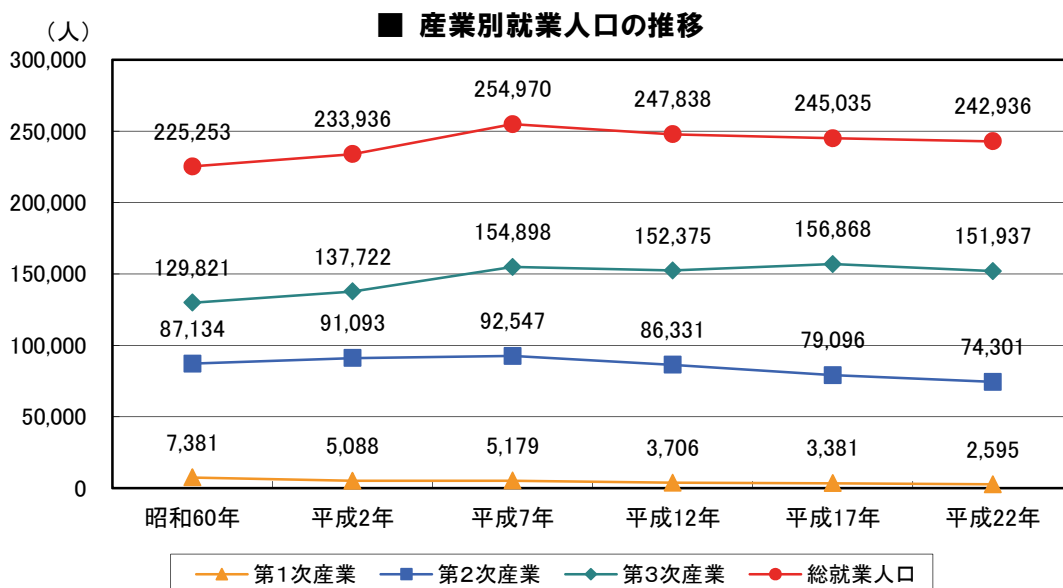
人口の増加とともに世帯数も増加傾向にありますが、核家族化や単独世帯等の増加により、平均世帯人員は減少しています。





② 就業人口の推移

本市の就業人口は242,936人（平成22年）であり、平成7年の254,970人をピークに減少に転じています。このうち、第1次産業及び第2次産業については平成7年以降、一貫して減少を続けており、第3次産業については平成22年に減少に転じています。産業別就業人口の割合をみると、第2次産業の比率が全国平均より高くなっています。

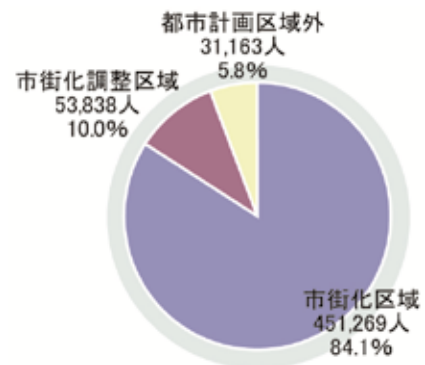


③ 人口の分布

本市では、姫路駅周辺や臨海部の既成市街地を中心に多くの人口が分布していますが、市街化区域の周辺部においても広く人口が分布しています。

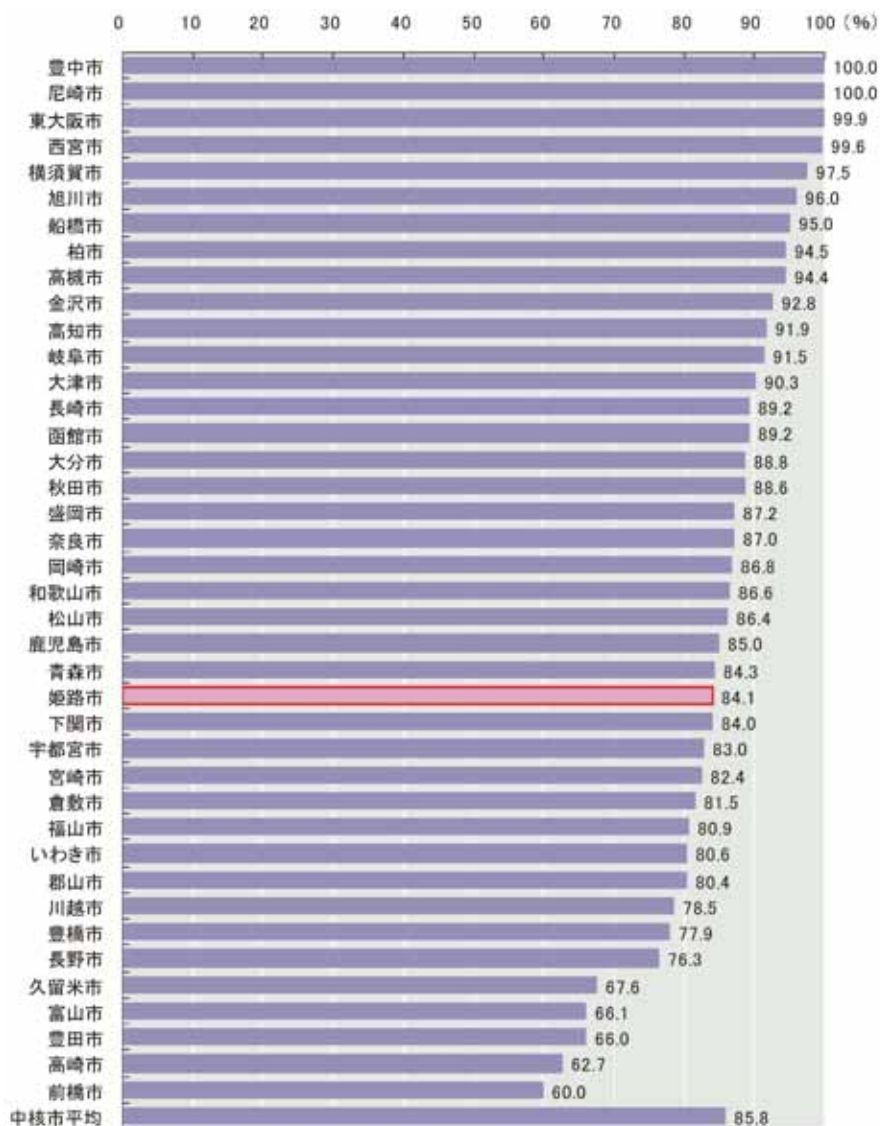
平成 22 年現在では、人口の約 84%にあたる 451,269 人が市街化区域に居住しているものの、約 10%にあたる 53,838 人が市街化調整区域に居住しているなど、他の中核市と比べて、比較的多くの住民が市街化調整区域等で生活しています。

■ 区域別人口(平成22年)



資料：国勢調査

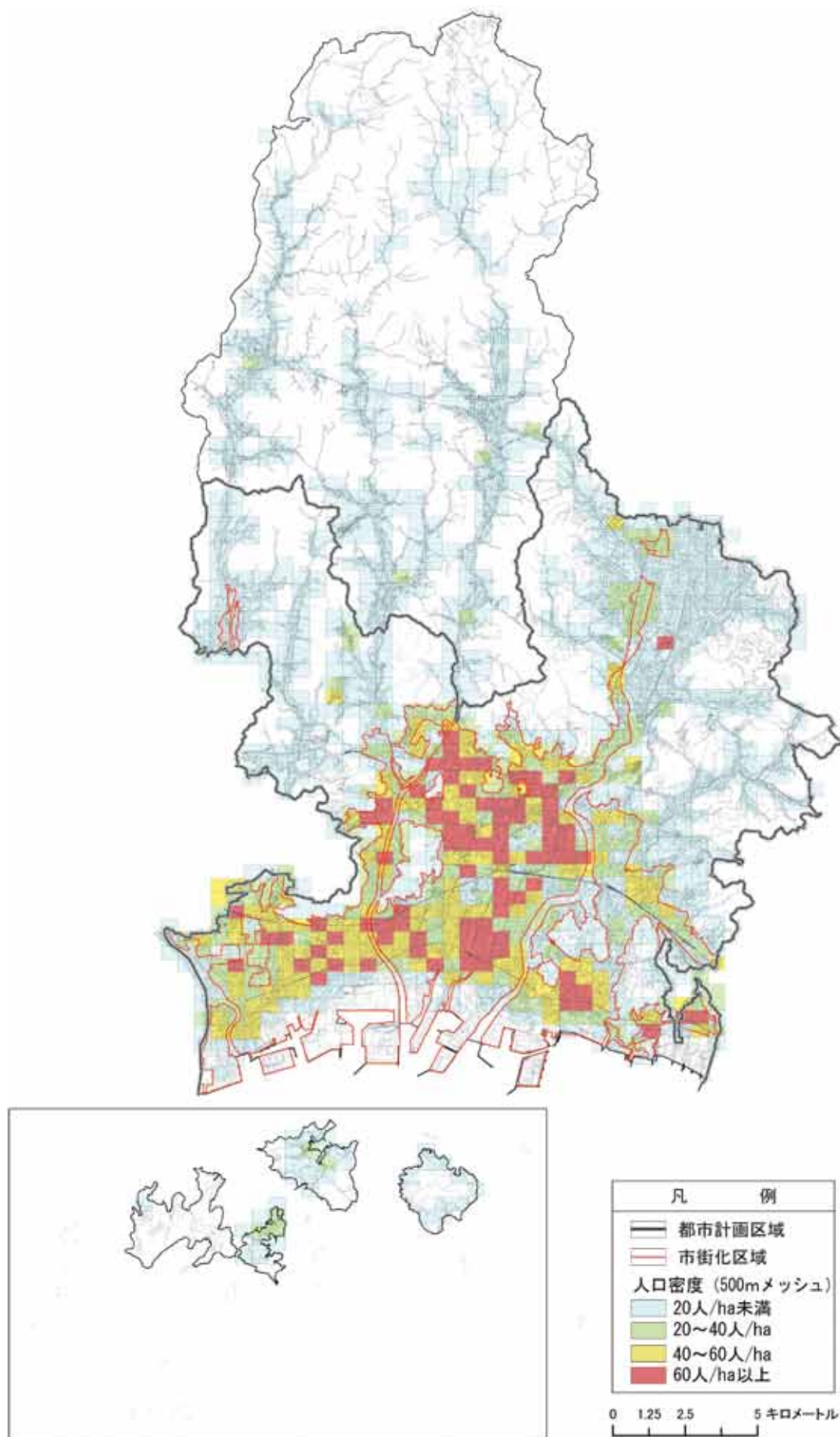
■ 中核市別市街化区域内人口の比較(平成22年)



資料：国勢調査

注：高松市は区域区分を設定していないため、比較対象から除いている。

■ 人口密度の分布(平成22年)



資料：国勢調査

(2) 土地利用

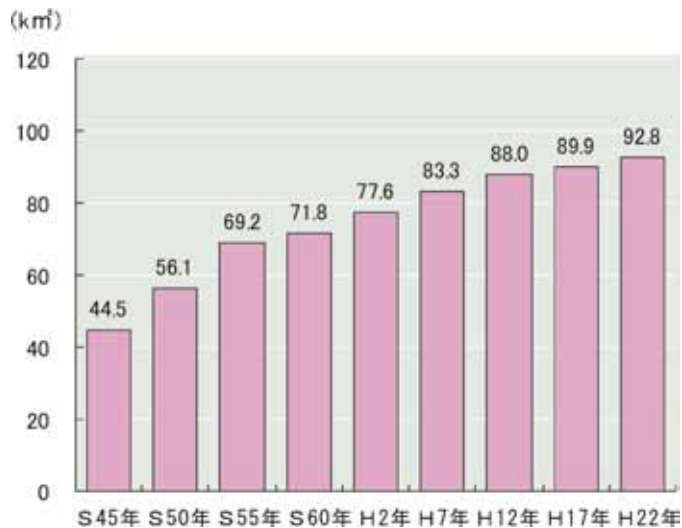
① 市街地の変遷

増加する人口に対して市街地が拡大してきた結果、D I D（人口集中地区：人口密度が1km²当たり4,000人以上である地区）の面積は、昭和45年から平成22年の40年間で2倍（92.8km²）に増加しています。

その一方で、平成22年現在におけるD I D内人口比率は71.6%であり、中核市平均を下回る水準にあります。

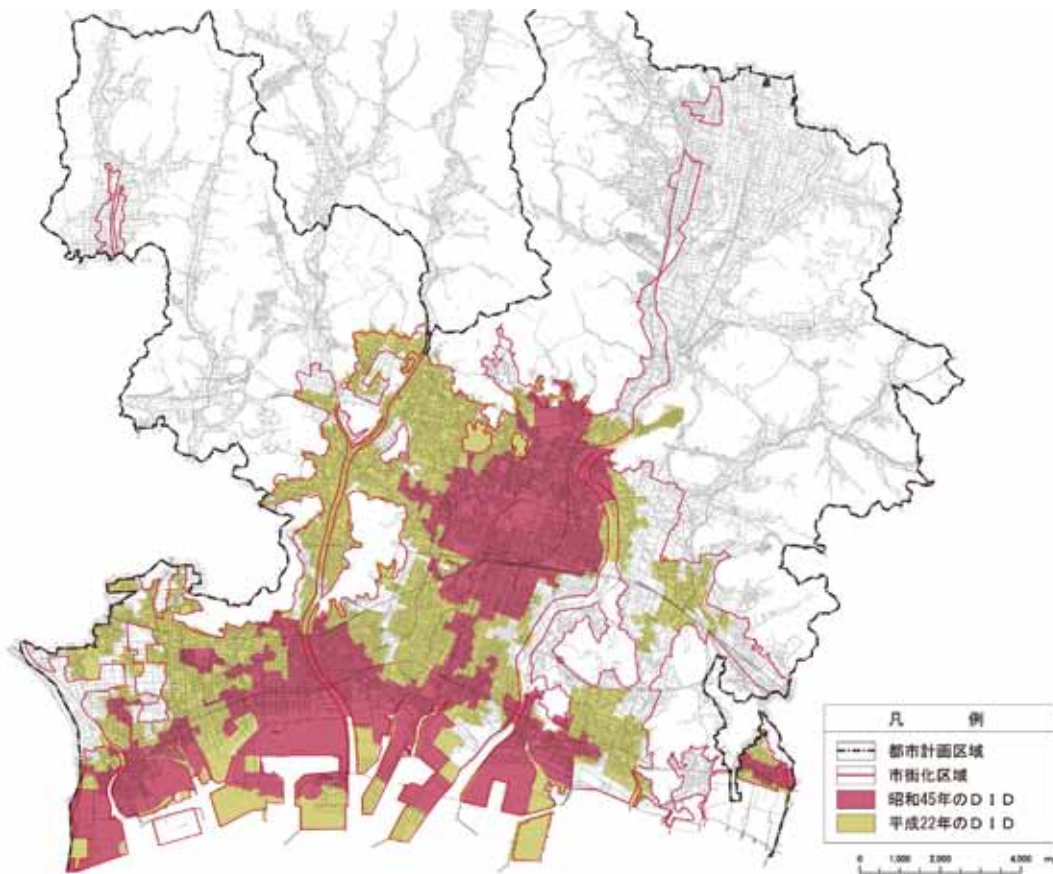
他の中核市と比べて、本市では、稠密な市街地を形成していない集落等が散在しています。

■ DID面積(人口集中地区)の推移



資料：国勢調査

■ DID(人口集中地区)の変遷



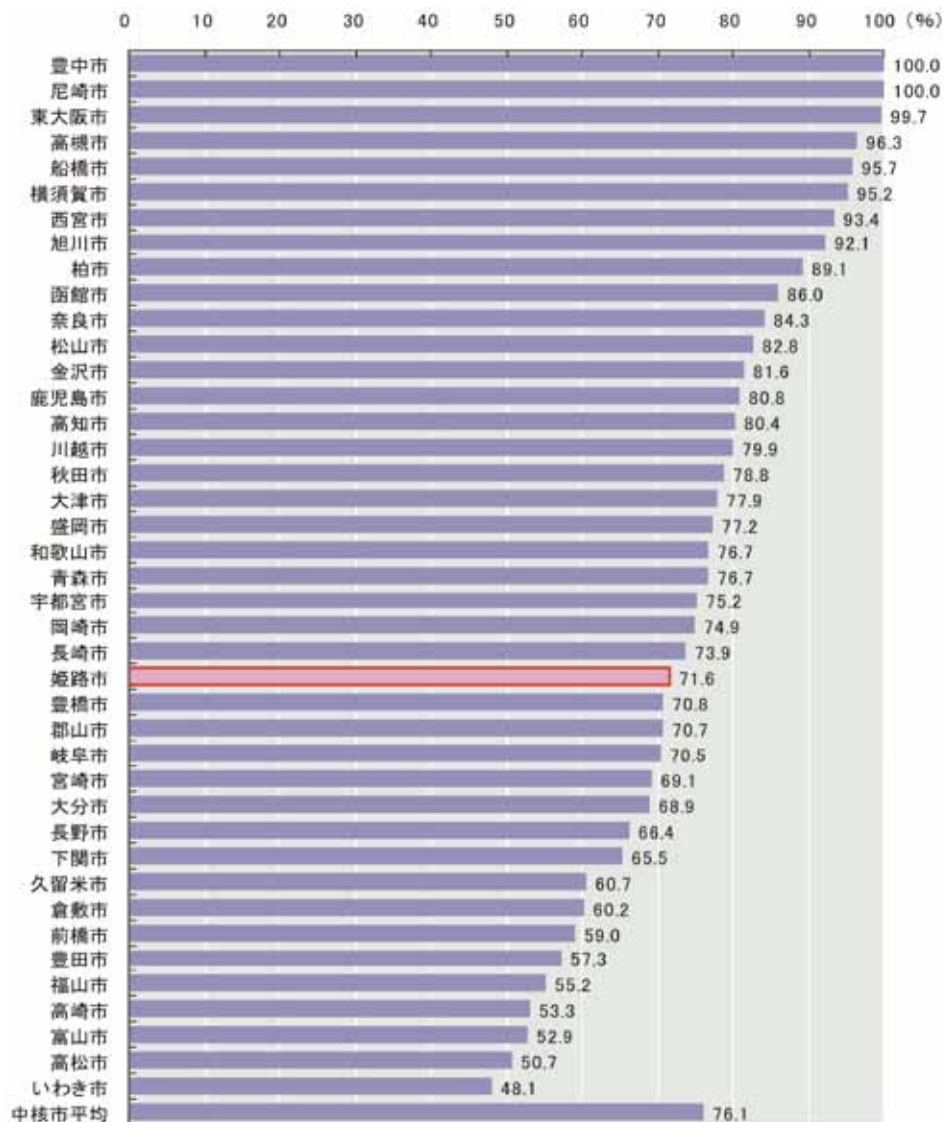
資料：国勢調査

■ DID内外の人口及びDID内人口比率の推移



資料：国勢調査

■ 中核市別DID内人口比率の比較(平成22年)



資料：国勢調査

② 土地利用現況

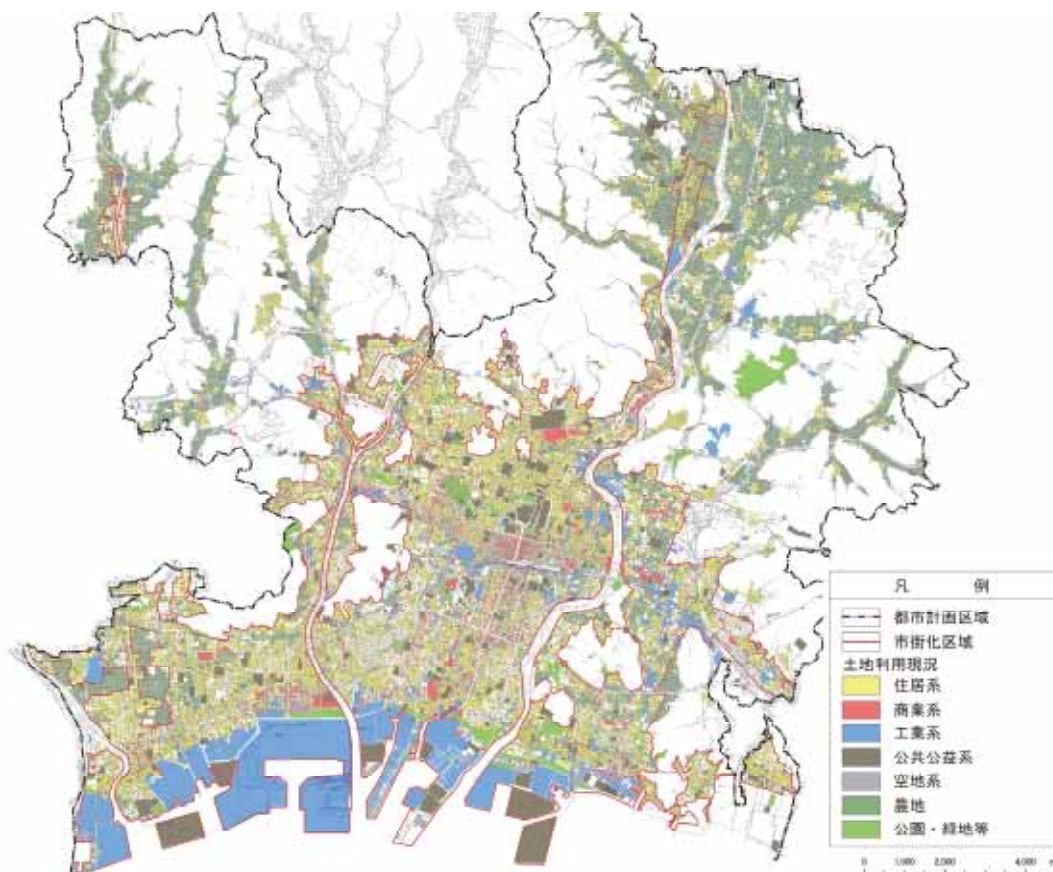
本市は、平成 18 年の市町合併により面積が約 2 倍になり、従来の都市部に加えて海、山、川の豊かな自然を有する都市となりました。

また、市域の約 58%にあたる 30,753ha が都市計画区域に指定されています。このうち、市南部の低地を中心とした 11,058ha（市域の約 21%）が市街化区域に設定されています。

市街化区域では、住宅地のほか姫路駅周辺等の商業地や臨海部の工業地といった都市的土地利用が展開していますが、古くからものづくり産業が営まれてきた本市では、住工混在地等が広い範囲で分布しています。また、一部の地域では、農地等の空閑地が多く残っています。

市街化調整区域では、市川や林田川、大津茂川等の河川沿いに農地が広がり、各地に集落が点在しています。一部の地域では、住宅団地や工業地等の都市的土地利用が展開しています。

■ 土地利用現況



資料：平成 17 年度都市計画基礎調査

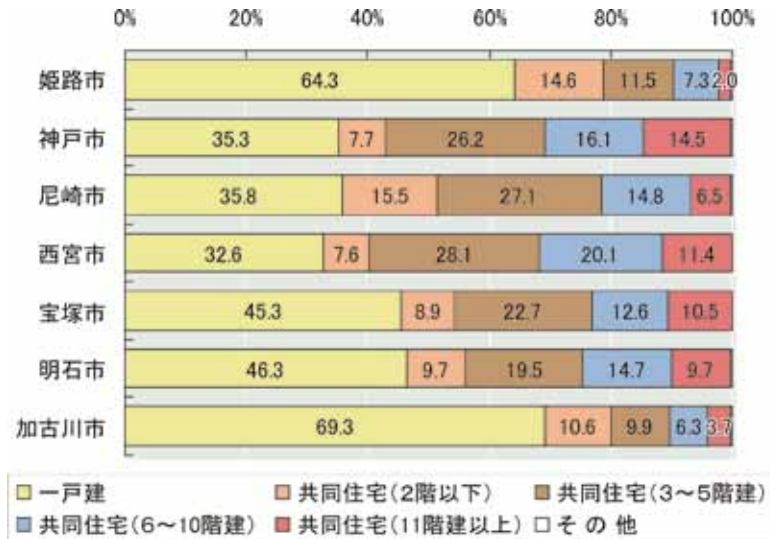
注：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

③ 建築物の高さの状況

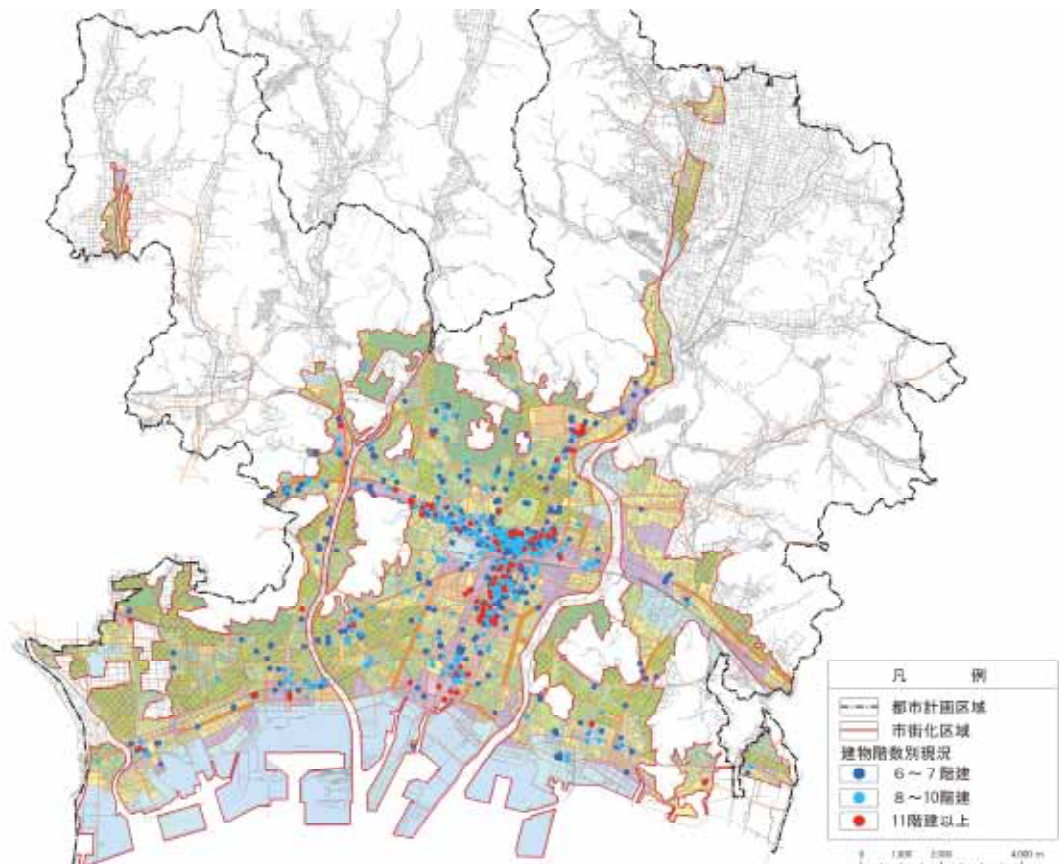
本市における住宅の立地状況は、阪神間の主要都市と比較して戸建住宅等の低層住宅の割合が高く、住宅市街地は中低層の形態が一般的となっています。

6階建以上の中高層建築物の立地状況をみると、姫路駅周辺の都心部や主要鉄道駅周辺に集積しているほか、幹線道路沿道に分散して立地しています。

■ 住宅の建て方の割合(平成20年)



■ 建物階数別現況



資料：平成20年度都市計画基礎調査

注：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

(3) 都市施設

① 交通

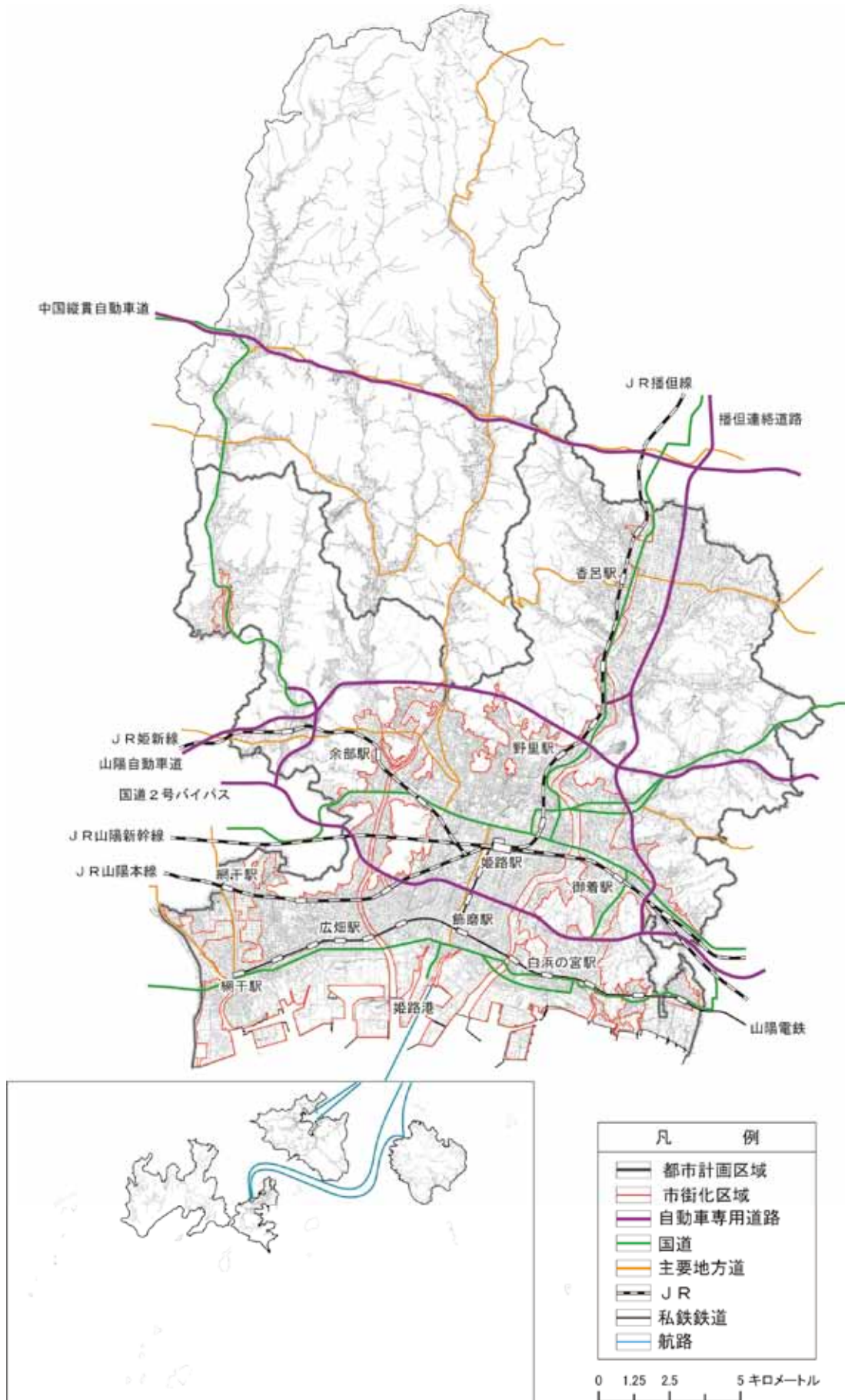
本市では、東西方向の山陽自動車道、中国縦貫自動車道、国道2号バイパス（姫路バイパス）、国道2号、国道250号と、南北方向の播但連絡道路、国道29号、国道312号、国道372号によって広域的な幹線道路網が形成されています。また、これらの道路網に加えて、播磨地域の産業・経済活動発展の基盤として、播磨臨海地域道路網の検討が進められています。

また、本市の公共交通は鉄道、バス、旅客船で構成されています。鉄道は、東西方向のJR山陽新幹線・山陽本線、山陽電鉄本線・網干線、南北方向のJR播但線・姫新線があります。市内には30の鉄道駅があり、鉄道交通は比較的充実していますが、夢前町、安富町方面は鉄道空白地となっています。

主なバス路線は、姫路駅を中心として、市内各地に放射状に広がっていますが、その一方で、環状方向のバス路線が不足しています。

旅客船については、姫路港と家島町を結ぶ姫路港～家島、姫路港～坊勢島の2航路が運航されています。姫路港～坊勢島の運航便の一部は、男鹿島や西島へ寄港しています。

■ 交通の現況



② 都市計画道路

市街地内の幹線道路は、3 環状道路と 10 放射道路を中心に構成されています。これらの幹線道路のうち都市計画道路については、139 路線、延長約 322km が計画されており、平成 25 年度末現在における整備済延長は約 208km で、整備率は約 65%となっています。

また、未整備路線のうち、約 96%にあたる 50 路線、約 100km については、新設又は現道拡幅の計画を定めた時から 20 年を超えている状況です。特に、市街地に集中する自動車交通を分散する効果が期待できる環状道路の整備が遅れています。

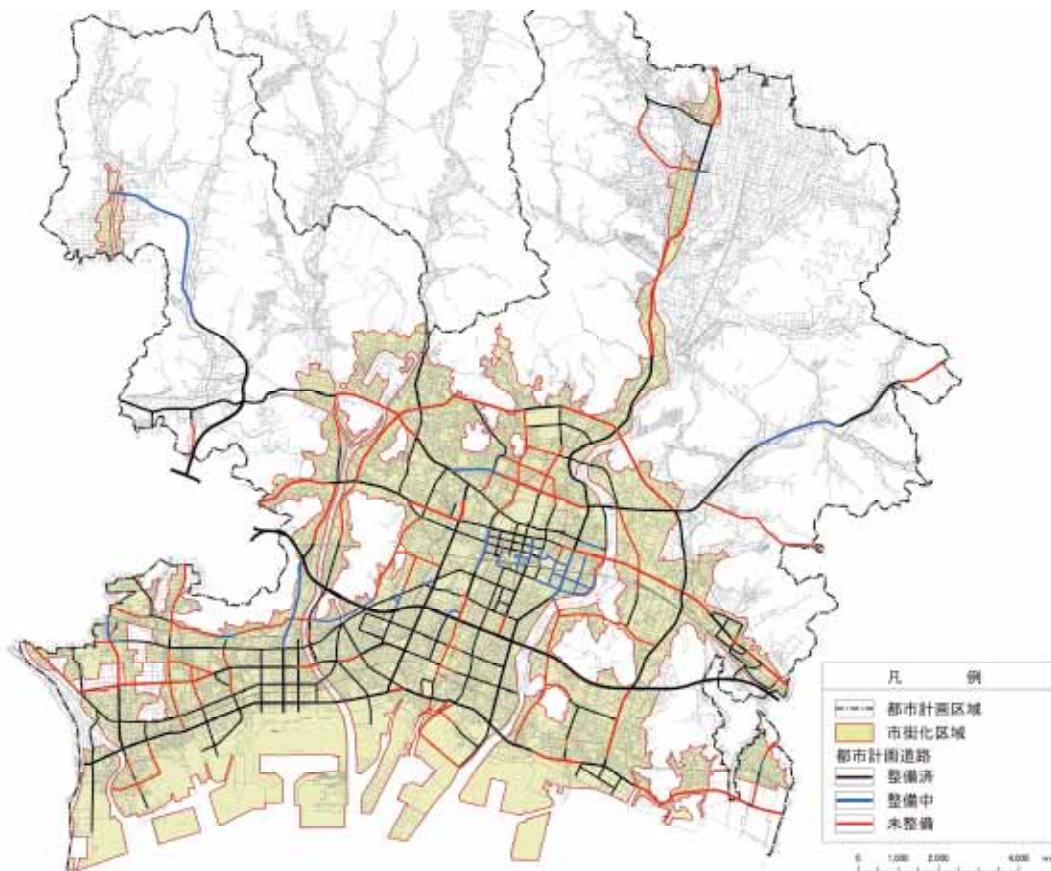
■ 都市計画道路の整備状況

単位：m、%

種別	路線数	計画延長	整備済延長	整備率
自動車専用道路	1	2,900	2,900	100.0
幹線街路	110	305,840	192,340	62.9
区画街路	20	10,390	9,850	94.8
特殊街路	8	3,240	3,030	93.5
合計	139	322,370	208,120	64.6

注：平成 26 年 3 月 31 日現在

■ 都市計画道路の整備状況



注 1：平成 26 年 3 月 31 日現在

注 2：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。

③ 都市計画公園・緑地

本市の都市計画公園は294公園、面積665.6ha、緑地等については3箇所、87.0haが都市計画決定されており、代表的なものとして、世界文化遺産姫路城を含む姫路公園や自然環境を生かした桜山公園、手柄山中央公園等があります。また、臨海部の工業地帯とその後背地における住民の生活環境の保全を図るため、浜手緑地が整備されています。

平成25年度末現在における都市計画公園・緑地の整備状況は、計画面積約753ha（297箇所）に対して整備済み面積が約344ha（226箇所）で、整備率は約46%となっています。

また、未整備公園・緑地のすべてが新設の計画を定めた時から20年を超えている状況です。

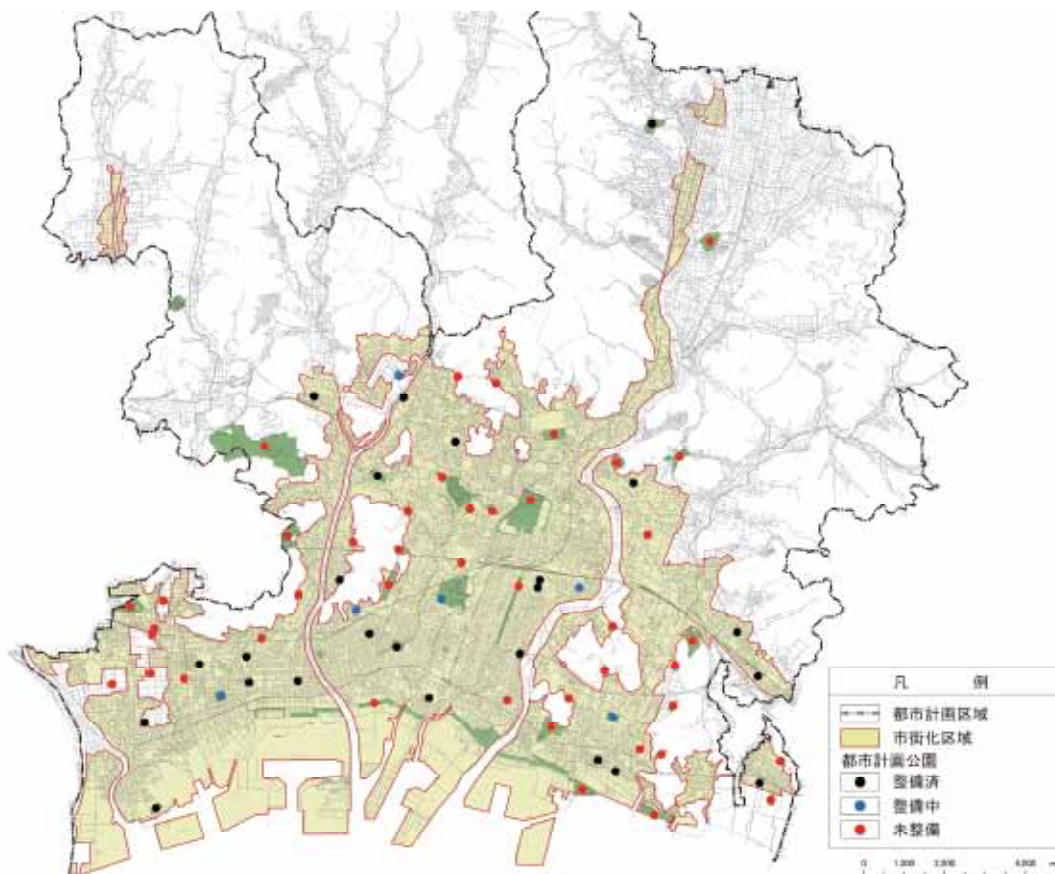
■ 都市計画公園・緑地の整備状況

単位：ha、%

種別	箇所数	計画面積	整備済み面積	整備率
街区公園	222	54.2	48.2	89.0
近隣公園	44	92.7	37.6	40.6
地区公園	16	117.4	33.2	28.2
総合公園	10	369.5	141.3	38.2
運動公園	1	15.4	8.0	51.9
風致公園	1	16.4	0.5	2.7
緑地等	3	87.0	75.6	87.0
合計	297	752.6	344.3	45.8

注：平成26年3月31日現在

■ 都市計画公園・緑地の整備状況（街区公園を除く）



注1：平成26年3月31日現在

注2：上記図面は、基となる資料の関係上、都市計画区域のみ表示しています。